

アゼルバイジャンのフルーツ紹介

アゼルバイジャンの報道によれば、2022年の世界における柿の主な生産国は、中国(342万9000トン)、韓国(20万600トン)であり、次いでアゼルバイジャン(19万2400トン)は第3位と日本(18万7900トン)を上回っています。

アゼルバイジャン中部ギョイチャイ県では広大な柿畑が広がり、10月になれば甘く歯ごたえのよい甘柿が手に入ります。地元民の中には、ゼリー状になるまで赤く完熟した柿を、スプーンですくいながら紅茶と一緒に賞味するのが好きな方もいます。冬になれば、日本人には馴染み深い干し柿も、たくさん売られています。

柿のほかに、四季を代表するフルーツとしては、冬はリンゴにミカン、春にかけてイチゴがあげられます。夏は最も賑わいを見せ、初夏にネクタリン・桃・杏・プラム・チェリーが出回り、その後各種ベリー類、晩夏に洋ナシ・スイカ・メロン・ブドウ・イチジクが続きます。柿とザクロが秋の訪れを知らせ、マルメロ・フェイジョア・メドラーが冬将軍を連れてくれば一巡します。また、収穫後は生食のほか保存食としてジャムやドライフルーツに加工され、紅茶の相手としてうってつけです。

地域毎にも特色があり、グバ県のリンゴ、ギョイチャイ県のザクロ、アブシェロン半島のイチジク、シャマヒ県のブドウ、サビラバド県のスイカ、ランカラン県の柑橘類などが有名です。特にグバ県では、日本品種の「ふじ」及び「サクライ」が生産されており、リンゴを通じて両国の交流を感じることができます。

アゼルバイジャンにお越しの際は、色とりどりでさまざま、そしておいしいアゼルバイジャンのフルーツの味わいをお楽しみください。



ザクロ



甘柿



チェリー類

(以上)